

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで 奥州街道竜飛岬までー1



平野 武宏

日光道中（日光街道）と奥州道中（奥州街道）は宇都宮宿までは同じ道です。バーチャルウォークで日光道中から日光東照宮を訪れた寅次郎、宇都宮宿へ戻り、さらに奥州街道を北に進み、陸奥國（現在の青森県）三厩（みんまや）宿、そして津軽半島最北端の竜飛岬までの長いバーチャルウォークに挑戦します。

バーチャルウォークとは毎日の散歩などで歩いた距離をコースシートの2km単位で進んでゴールを目指します。コースシートはHPのYR・四季の道をご覧ください。

奥州街道竜飛岬までのバーチャルウォークは2020年12月～2021年8月に歩いて、寅さん歩352 東京の博物館めぐり-39～寅さん歩373 谷端川の流れを歩く-5の内で経過のみを報告しました。今回は各宿場を紹介しながら歩きます。

五街道ウォーク・八木牧夫著「日光街道 奥州街道」（山と溪谷社）、歴史と文化を訪ねる 日本の古道・五街道（教育画劇）を参考にし、写真は無料画像を使用します。徳川家康が整備して幕府が直轄した「五街道」の奥州道中（奥州街道）は日本橋から白河宿までで白河宿から北の奥州街道は幕府の勘定奉行が管理し、各藩が支配しました。

[宇都宮宿] 栃木県宇都宮市伝馬町三丁目

最寄駅 JR東北本線 宇都宮駅、東武宇都宮線 東武宇都宮駅

写真右は現在の宇都宮城址公園です。宇都宮城は平安時代から宇都宮氏の祖が居館とし、江戸時代は宇都宮藩の居城でした。2024年9月10日下野国（現在の栃木県）宇都宮宿（日本橋から113km）を出立しました。

日光道中と奥州道中の追分の標識を奥州道中（白河道）方面へ進みます。



[白沢宿] 栃木県宇都宮市白沢町

最寄駅 宇都宮駅西口よりバス利用

2024年9月14日白沢宿（日本橋から122km）に到着しました。
日光道中から分かれての最初の宿場です。鬼怒川の河原には、江戸から30里の一里塚がありましたが、増水すると「鬼が怒る」ほどの激しい鬼怒川の流に、たびたび壊されました。現在は記念碑（写真下左）が立っています。その鬼怒川から引いた用水が街道に沿って流れていて、旅人は鬼怒川でとれた鮎や特産のごぼう（写真下右）などでもてなされました。



[氏家宿] 栃木県さくら市氏家

最寄駅 JR東北本線 氏家駅

2024年9月17日氏家（うじいえ）宿（日本橋から130km）に到着しました。



古くから鬼怒川の豊かな水によって稲作が盛んな氏家宿は鬼怒川の阿久津河岸があり、東北地方からの米や特産物と江戸から運ばれたものが集まる拠点となりました。また氏家宿は陸路でも交通の要衝で水陸の交通の拠点として栄えました。写真上左は古い町並み、写真上右は鬼怒川です。

[喜連川宿] 栃木県さくら市喜連川

最寄駅 JR東北本線 片岡駅よりバス利用

2024年9月20日喜連川宿（日本橋から134km）に到着しました。

喜連川（きつれがわ）宿は源平合戦 宇治川で活躍した武士 塩谷惟広が城を築いたのがはじまりです。その後、喜連川家が治めることとなり、喜連川城の城下町としてなりました。藩主の喜連川氏は先祖が足利尊氏の流れをくむ「古河公方」のため、幕府はその格式を認め、参勤を免除しました。

「喜連川」の地名の由来は荒川上流のケヤキの大木に狐が住み、「狐川」と呼ばれていたからとか、荒川と内川が来て連なる（一つに合わさる）から「来蓮川」と呼ばれたからなど諸説があり、縁起の良い字の「喜連川」になったそうです。喜連川宿内には防火と農耕生活のために用水（御用堀）が引かれ（写真下左）屋敷のまわりには美しい笹（寒竹）の生垣（写真下右）が作られています。



童謡詩人 野口雨情は奥さんが喜連川出身で、雨情の妹も喜連川に嫁いだので、たびたびこの地を訪れ、「雨降りお月さん」、「七つの子」など多くの作品を残しました。

[佐久山宿] 栃木県さくら市佐久山

最寄駅 JR東北本線 片岡駅よりバス利用

2024年9月26日佐久山宿（日本橋から148km）に到着しました。
佐久山は那須一帯（栃木県北東部）を治めていた那須一族の発祥の地です。中でも佐久山宿は、源氏の側で活躍した弓の名手「那須与一」（写真下左）が兄の泰隆に与えた土地です。那須泰隆は鎌倉時代に佐久山南部に城を築き、佐久山氏を名乗りました。しかし、室町時代後期に佐久山氏は同族の福原氏によって滅ぼされました。やがて福原氏の子孫によって佐久山城を修復し、佐久山はふたたび城下町になりました。写真下右は鎌倉時代に親鸞聖人が宿を乞うて与えた尊像を置くお堂が建立の起源となった正浄寺（しょうじょうじ）です。



[大田原宿] 栃木県大田原市新富町二丁目

最寄駅 JR東北本線 西那須野駅よりバス利用

2024年9月30日大田原宿（日本橋から156km）に到着しました。
大田原宿は下野国（栃木県）の北部に広がる那須ヶ原で、一番大きな宿で那須与一が生まれた所です。室町時代後期に那須家の家臣、大田原資清（すけきよ）が大田原城を築いたことから、町が次第に大きくなりました。江戸時代は大田原城の城下町として、大いに賑わいました。日光北海道、黒羽道、塩原道なども交わっていました。写真下左は那須与一像、写真下右は親鸞聖人がこの地で宿を乞うて止まった家において行った尊像のお堂が建立の起源と言われている大田原神社です。



[鍋掛宿・越堀宿] 栃木県那須塩原市鍋掛・越堀

最寄駅 JR東北本線 黒磯駅よりバス利用

2024年10月4日鍋掛宿（日本橋から168km）に到着しました。
鍋掛宿と越堀宿は奥州道中の難所といわれた那珂川をはさんでありました。
越堀宿は那珂川が増水で川止めになった時、奥州から江戸を目指す旅人のために設けられました。鍋掛宿と越堀宿は距離が近かったため、合わせて一宿の役割を果たしていました。鍋掛の地名は那珂川の川留により旅人が溢れ、住人が総出で鍋を掛け、炊き出しを行ったところに由来しています。
写真下左は鍋掛宿、写真下右は越堀宿です。



[芦野宿] 栃木県那須郡那須町芦野

最寄駅 JR東北本線 黒田原駅よりバス利用

2024年10月7日芦野宿（日本橋から176km）に到着しました。
1500年代（室町時代）に那須氏の一族である芦野氏が芦野城を築き、その後、宿場町として発展したのが芦野宿です。関東の最北に位置し、奥州から来ると関東の入口だったため、多くの人で賑わいました。松尾芭蕉をはじめ多くの文化人が訪れた宿でもあります。徳川の世になると三千石の旗本になりました。那須一族の血をひくため、一万石以上の待遇を受け、参勤交代も行っています。写真下は芦野宿陣屋跡です。



磐城国（現在の福島県）に入ります。

[白坂宿] 福島県白河市白坂 最寄駅 JR東北本線 白坂駅

2024年10月8日白坂宿（日本橋から188km）に到着しました。



白坂宿は下野国（現在の栃木県）と磐城国（現在の福島県）の国境で陸奥國側の宿です。芦野宿と白河宿間の距離が長いため、新設され、「雨が降っても傘いらず」といわれ本陣、脇本陣、旅籠の軒が連なっていました。写真上左は白坂宿で今は昔の面影がありません。

写真上右は室町時代の1408年（応永15年）創建の天台宗の観音寺です。

白坂宿の本陣と問屋を歴任した白坂家の菩提寺です。この辺りは戊辰戦争の激戦地で両軍の戦士が葬られています。

「おくのほそ道」の旅では、松尾芭蕉はここで奥州道中と分れて白河関へ向かっています。

[白河宿] 福島県白河市本町

最寄駅 JR東北本線 白河駅、JR東北新幹線 新白河駅

白河に近づくと「戊辰戦争」にまつわる碑がいくつも見かけられます。

10月11日白河宿（日本橋から196km）に到着しました。

白河宿は、白河藩による小峰城（白河城）の城下町として栄えました。

天守が三重の白河城は戊辰戦争で焼失、1991年（平成3年）木造で復元（写真下左）されました。写真下右は白河宿の街道筋です。



奥州街道はまだ北へと続きますが、徳川幕府が制定・直轄する奥州道中はここまで、この先は仙台宿までの奥州街道を「仙台道」と呼びました。

白河は仙台へ向かう仙台道、会津に向かう白河街道、水戸へ向かう棚倉街道の追分となります。

今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝